



第36回技能五輪国際大会は、韓国・ソウル市において、エキジビションを含めて去る9月6日より19日まで、2週間に亘って開催されました。競技は、9月13日より16日の4日間でしたが、左官職種の副エキスパートとして参加された長谷川哲義氏は、競技中はもとより競技会期間中の2週間、会議、打ち合せ、審査・レセプション等々国際大会での多忙な役目を果たされました。

前回の大会は、日本選手の金メダル獲得ということもあり、今回は氏のプレッシャーも並大抵ではなかったかと思われます。大橋賢選手は残念ながら金には届きませんでしたが、課題の出来映えは、入賞した外国選手と比較しても決して遜色なく、国際大会の難しさを感じておられたようです。しかし、次回大会には、これまでの経験と実績を評価され、左官職種のチーフエキスパートに推されました。これは、とりも直さずわが国の技術・技能、氏の力量が世界に認められたものであり、今後のわが業界を担う若者たちにとって大きな力となることでありましょう。

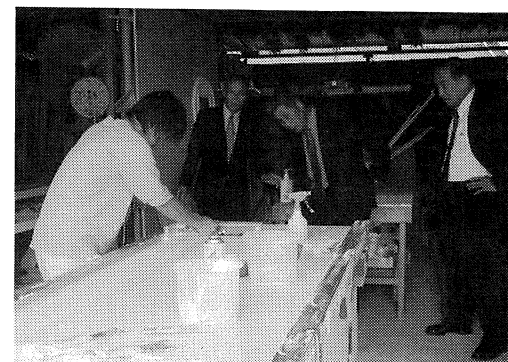
これは、長谷川哲義氏の韓国大会での詳しい見聞記です。

## はじめに

技能五輪国際大会は、韓国ソウル市のオリンピックスタジアム、フェンシング競技場で参加国35カ国、出場選手616名で9月12日に開会式を行い、4日間の競技が行われました。今回は、日本選手団31職種33名の選手がエントリーしました。わが国の左官職種は、今年のさいたま大会優勝者で福島県(有)兄弟美工所属の大橋堅君が出場しました。国際大会はそれぞれ異なる言葉、習慣、技法、技術、道具等で競技開始直前に決まった課題を選手が図面の解説と総ての作業をスピードと正確さを競います。

第一回国際大会は、1950年にスペインで開催、日本は1962年の第11回から参加し、左官職種は第17回(1968年)昭和37年から参加しております。(参加者氏名などは別紙)

私も今回で4度目の参加ですが、前回金メダルを取ったのでプレッシャーはありますが、出場するからには一番低い表彰台を第一目標にと内心思っております。しかし、国内大会もそうですが、世界大会は、それ以上に競技会場に魔物が住んでいる様です。何が起きても不思議



大会前の強化訓練中の大橋選手を激励に駆けつけた池本日左連会長

ではない、一種独特の雰囲気があります。

この大会に限り伝統工法にこだわる事なく、将来に向かって、新しい技術を取り入れる積もりですが、毎回参加するたびに高度な技術・技能力、そして指導力の素晴らしさを学ぼうとしている訳ですが、常に反省させられることが多すぎます。一からの勉強と出直しとを毎回決意しているのですが……。

今回は、選手の強化訓練中、日左連池本会長がじきじきに福島県(有)兄弟美工社へ出かけ激励され、前回金メダルをとった福村君のコーチで(株)イスルギ左官事業部部長・原崎勝夫氏、そして、スイス大会に出場した山岸君のコーチでもあ

る新潟県の高野雅一氏にも泊まり込みで指導していただきました。選手共々たいへん勉強になりました。ありがとうございました。

私も選手と同じ気持ちで常々思っているのですが皆様もご承知の通り、石膏は非常に気候に左右され、温度、湿度、材料も混入する水の温度で違い、同じ参加種類の中でも一部上場企業でありませんので、訓練する期間が限定されています。又、日数を消化すればうまくなるという材料でもありませんので、できるといふ事より材料になれるということだと思います。

訓練目標として、全国のコーチによってそれぞれ違うでしょうが、当然全国大会の時から、行動はぐずぐずせずに時間厳守し、所定の場所に付き、これから行う作業の心の準備を整えて待機する。最も短い時間に最良の結果を得られるように、現場で作業している時から、常に手順方法を考え、創意工夫を自分で考えて、改善するべきだと思います。(明日より今日)(今日より明日)と時間の短縮の努める訓練が必要かと思っています。又、使用工具は必ず、一回一回元に戻す。そして、行う作業の前後は、かならず心に明記し

ておく。特に図面の解説をすばやくできる様にして、作業の配分、道具の整理、休憩時間、昼休み等時間の配分を自分で速やかに決定する。審査の基準は、壁は鏡のように、置引はガラスのように、留は刃のようにと、日本と同じ方法ですがスケール等はJISマーク付を使用すべきだと思います。

国内競技大会も訓練中、これはどうするのかではなく、これはこうしたいのだという風に、競技の為の訓練は勿論大切だと思いますが、それ以上に左官業界の後継者に自信と誇り、そして夢と希望、又、即戦力につながるような指導も必要かと思っています。

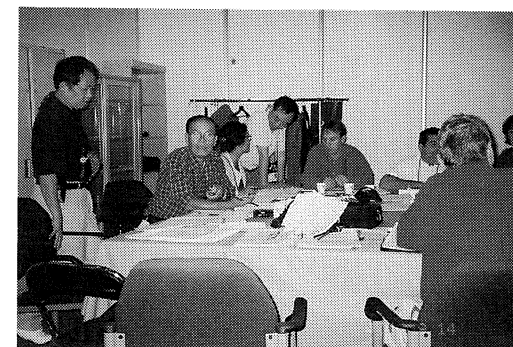
選手とエキスパートは一切会話は出来ませんが、今回は少し出来るときは多々あった様に思います。(前回より楽でした)選手との連絡はオブザーバー(選手の父親・大橋幸次氏)にお願いしておいたので、携帯電話等で連絡を取っていただきました。たいへん助かりました。ありがとうございました。

選手は、朝夕の挨拶は必ずニコニコと英語、ドイツ語、フランス語と相手国語でするようにすると、たいへん好印象をあたえると思います。大橋君もそれを実

行してくれまして、たいへん印象度が良かったと思います。そして、英語が全然解かりませんというと、バカにされますので少しでも方言的になってもいいから話すことによって選手同士のコミュニケーションが取れると思います。又、専門語も少し知っておくのも必要かと思っています。

今回は事務手続不足で、(有)兄弟美工の大橋社長にはたいへん御迷惑と御心配をかけてしまいましたが、オブザーバーとして参加してくれました大橋幸次氏が強化訓練中、そして本番とたいへんご苦労をおかけしまして申し訳なく思っております。

話が色々となってしまいましたが、今回の国際大会については、6月12日(火)～6月14日(木)と全職種の選手派遣前研修、エキスパート会議を開いたわけですが、韓国事情について、選手エキスパート紹介、意見交換会、事前調査報告、工具輸送日程、トヨタ自動車エキスパートの和田氏、技術代表の中野引伸氏、そして左官職種の私が技術体験発表とエキスパート会議を質疑応答の後、閉式を行いそれぞれ本番に健闘することを誓い合いながら終了しました。



エキスパート会議での長谷川氏

## いよいよ大会へ

私は、選手団役員、エキスパート、通訳、先発オブザーバーの第一陣として、9月5日(水)事務局の見送りを受け、前回金メダルを取った時の通訳で海外通訳として鈴木いく子女史と共に成田空港を発ち、夜8:00に第一陣の宿泊先であるCOEXインターコンチネンタルホテルに到着。

9月6日(木) 9:00より選手のホテル、競技会場を視察し、全職種の自己紹介と共に全体ミーティングに入り、各職種毎に競技会場内部をそれぞれ視察、左官職種は当初5F屋上のテント内と言う事でしたが、都合により1Fの1500m×75m位のスペースの中の20m×30mの中に変更。天候に左右されず、見学者も入り易い場



歓迎パーティにて談笑する 左：イギリスのエキスパート  
中：フランスのチーフエキスパートの方たちと長谷川  
サブエキスパート

所なので安心しました。17:50シャトルバスにて19:00よりの歓迎パーティーへ。20:30終了までに、ドイツ、台湾、フランス、スイスと再会し、歓談をする。

9月7日(金) 8:00より各国全職種エキスパート、オブザーバー等による市内視察、ソウルタワー、宮殿、昼食はCOEX会場にて各国全員で昼食、その後フリー南大門市場へ。

9月8日(土) 9:00よりエキスパートトレーニング(会議)

新しいエキスパートにTW、UK、NL、KR、UKのエキスパートは私が初めてエキスパートとして参加し審査した時のゴールドメダリストでした。これには驚

きました。

自己紹介の後、日本がサブエキスパートに選ばれる。課題の公表、ドイツ、イギリス、フランスの中からドイツに決定。競技課題選定に入り、採点基準、採点方法に入り、新チーフエキスパート(フランス)はメモ書きなどは持参しても良いとは言わないが、見ない事にすると、チーフによって変わるものだった。

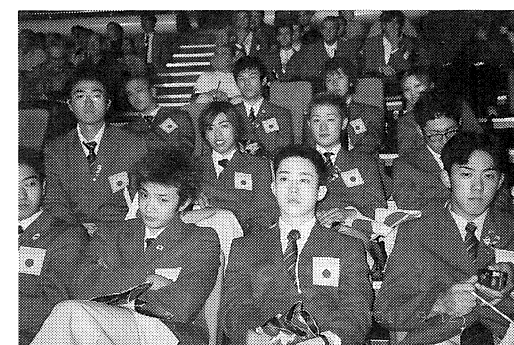
9月9日(日) 9:00より昨日に続き、競技課題選定、採点及び休憩時間の決定、相変わらず時間がかかる“新しいエキスパートの為”かもしれない。

11:00サブエキスパートと会議との事。サブエキスパート(副競技委員)は、名前だけかと思っていたのがすごいきつい会議である。今回を含めて次回の課題の選定審査方法について。現在、ペイント下地の為に試験塗りは明日へ、その後、採点等を検討することに決定。次回の競技課題の投票の件について、図面の事前公表が必要ではないか提案し、賛同を得る。そして、第1位に台湾、ドイツ、フランス、イギリスと3位迄の課題を本部に提出することに決定。

20:30~22:30迄、オブザーバーの大橋氏と公表された図面について打ち合わせ、その足で選手との打ち合わせに選手の元へ出向く。

選手は9月7日(金)都内で結団式。東宮御所、内閣総理大臣、厚生労働大臣への表敬訪問を行い、壮行会を開き、成田東急にて前泊し、9月8日(土)にソウルオリンピックホテルに着いております。なかなか選手との打ち合わせをする暇がありませんので、寸時を借しんで大橋氏が選手とのミーティングを行っています。私は当然、選手との接触を禁止されておりますので、大橋氏が私にとって頼りの訳です。

9月10日(月) 前日、左官職種課題についておおよそ終了しておりますので、本日はフリーですが、午後2:00よりサブエキスパート会議。次回に向けての会議です。公平性、透明性、技術用語の一覧表を作るとかスイス大会に向けた課題が主です。日本からの要望を通訳の鈴木女史に伝え、私は大橋氏と大橋氏の宿泊しているホテル周辺で、工具の買い物に出かけました。明日の打ち合わせをしながら3人で夕食する。



開会式での日本選手団、中段左から2人目が左官職種出場の大橋賢選手の晴れやかな顔が...

9月11日(火) 9:00会場にて会議。

休憩時間の配分、前回通りグループ分課題のチェック、午後2:00選手受付、工具展開、デモンストレーションといよいよ競技が始まる訳ですが、日本選手が受付の時に本人照合時のパスポートを持参せず、プースの中に入れない騒ぎになり、一時、パニックになりましたが、すぐにドイツ、スイスのエキスパートに本人で間違いないので私が保証するからと頼み、中に入れてもらいました。これもドイツと特別な友人として何回も付き合いがあるので助かりました。その間、大橋氏が選手のホテルへパスポートを取りにタクシーで行き、持参してくれました。パスポートは遅れましたが、本人もなんなくスムーズに工具展開作業に入れました。展開には、各エキスパートは手伝うこと

が出来ます。午後6:00終了

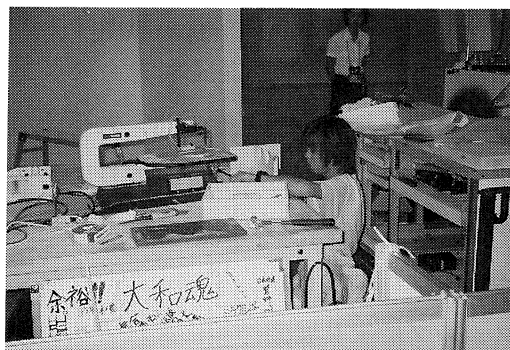
9月12日(水) 会場の準備も整い、いよいよ本日が開会式ですが、午前中フリースタイル、午後2:40シャトルバスにて会場へ。選手も日本選手団仲間と和気あいあいと青春の1ページをエンジョイしているかの様でした。

韓国もカナダ大会に負けず、素晴らしい開会式です。午後9:30終了

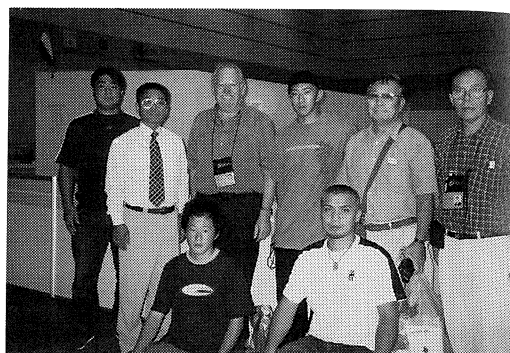
### 競技開始

9月13日(木) 9:00競技スタートですが、まず、チーフによる作業工程説明をして、図面の公開、約1時間くらい。10:00より作業開始。

日本選手は、まず、2200×2000×2100の三面ある壁から始めました。材料はペイントのパテのようなもので、新建材の



大橋選手型板の製作中



日本からの応援団とドイツのエキスパート シュバイツァー氏

中には日本でも見かける材料です。選手もグループに分け、休憩時間(1時間45分)。日本は、第2グループで、13:45～14:45迄休憩することに決定。その他に15分の休憩を取る。

まずまずのすべり出しに見られました。日本からの応援団が時間が経つにつれ、増えてきました。又、アジア地区が抽選で3名(TW,KR,JP)No.6、No.7、No.8と並んだせいもありますが、近隣国ですので応援団がすごい人数でした。日左連青年部、神奈川県連、神戸とたくさんの応援をいただき感激しました。作業午後5:00終了しましたので午後6:00より、青年部主催の60名近い夕食会に招待され、大橋氏、通訳、私も参加させていただきました。楽しい一夜を過ごす事が出来ました。有難うございました。

9月14日(金) 選手の競技中ですが、9:30よりエキスパート会議。

技術用語は総て3ヶ国にて提出。職種説明の見直し、技術事項の中から型ヌキについて、課題の公表、持参工具減少、モジュール化について、いろいろと意見が出され、次回に向けて、今回までの反省をふまえての会議が進みますが、途中で私はサブエキスパートに出席の為、別会議室へ。参考資料の早期配布、照明、課題の制作(下地)、管理、モジュール化の現実に向けての検討。

9月15日(土) 競技3日目で、会議、会議で今回はなかなか作業を見る時間が少ない。

9:30 エキスパート会議。採点の配分、3面の壁に点数配分、型の品質を重視、近代職業技法に反映しているか、否か。課題の安全性と機密性に対して満足しているか。否か。チーフエキスパート、サブエキスパートは、その任務をプロ意識を持って遂行しているか。電気コードの整理整頓。安全靴、安全服について。競技前に選手に非常口を知らせる。電気工具の安全性。

午後の会議で選手の時間がかかりそう

なので、時間延長したらどうだ?という意見が多数なので、明日、作業時間延長決定。日本に選手も時間が足りないようなので賛成の方に手をあげる。

本日は、阿食副会長が第3陣として会場に見えられ、チーフエキスパートの許可を得て、各エキスパートと面談を行い、「左官百選」を他のお土産と共に渡したが、再会のエキスパートも半数いましたので、スムーズに面談ができた様ですが、イギリスのエキスパートから、英文の「左官百選」が欲しいと要望があり、善処すると答えておきました。

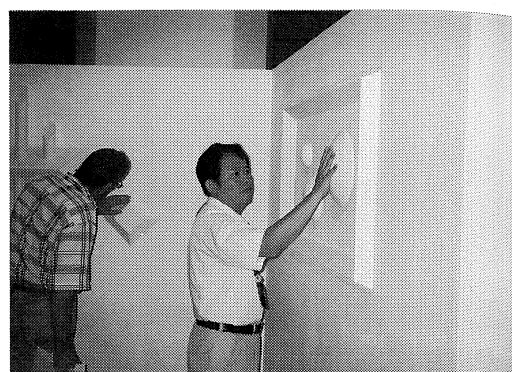
阿食副会長に作業台の抽選、工具展開、型作り等、今日までの選手の作業状況を簡単に説明し、日本選手は毎回、道具箱が大きいので、いつも一番端に当たればと思っていますが、今回も思い通りの場所に当たって幸いでした。又、今回は喜ばしい事に、日本からの応援団が、神奈川県連、群馬県連、東京都、神戸、新潟、名古屋、大阪亀井組、イスルギ、鹿児島、山口、熊本、日左連青年部と200名以上の応援をいただきました。有難うございました。うれしい事です、選手に声をかけすぎて、初日選手が集中力を無くし始め、作業の遅れが見えたので「作

業中は声を掛けしないで下さい」という張り紙を掲示させて頂きました。失礼をして申し訳ありませんでしたが、その後、理解をしていただきスムーズにマイペースに戻ることができました。

作業午後5:00終了。その後、6:00より阿食副会長に今日までの労をねぎらうという事で、通訳の鈴木女史と共に夕食をご馳走になり有難うございました。

9月16日(日) 日本選手は少し遅れている様子。本人はマイペースの積もりだろうが、私を初めまわりの者が少し焦っている。フランスは、すっかり余裕の感じ。日本は昼迄に大きい塗り補修が終われば良いと思うのだが、競技終了2時間前にオランダの選手がリタイア。原因は左壁石膏置引の額が落下。戦意を失い選手更衣室にて肩を震わせて号泣。自国のエキスパートはもちろんですが我々全員で2時間あるのだから続けるように説得してみましたが、本人は相当ショックの様です。1時間後に工具整理を始めてしまいました。かわいそうですが何ともしようもありません。今後の選手に対する指導方法等で反省させられました。

残り2時間の解釈で(もうあと2時間



審査は手で触れて仕上がり確かめる

きりしかない)(まだ2時間もある)この差の指導をどうするか、今後問題にしたいと思います。

チーフエキスパートより残り10分、残り5分、残り1分、競技終了!! 左官職種のブースを取りまいていた観客全員が大きな拍手をしてくれます。国内大会もそうですが、この瞬間は見学者と競技にたずさわっている者しか味わえない一種独特の時間で、感無量で感激するシーンです。2名未完成者のいる中、日本選手はよく総て完成させてくれました。

終了後、工具の整理に入り19:00より残土より審査開始。審査方法は競技開始前に決定しているので、今になって変更、意義の申し立ては認めない。今回はグループに分けずチーフエキスパートとサブエキスパートが全員のエキスパートのしている前で計測し、記入する。

残土審査については、韓国選手の残土が極単に少なく、クレームを付けたが証拠もなく受け入れられず本当に不思議である。これは次回の反省点にしたい。

9月17日(月) 9:00より昨日のつづきの審査を行う。

まず外観から全員でカードによる提示方法で行い自国の課題は今回は採点ができない。

- |            |        |
|------------|--------|
| A. コーティング  | 5ポイント  |
| B. 型の正確度   | 20ポイント |
| C. 型の品質    | 20ポイント |
| D. 留め継ぎ、交点 | 20ポイント |
| E. 寸法      | 25ポイント |
| F. 全般的印象   | 8ポイント  |
| G. 材料の使用   | 2ポイント  |

この様に審査する。採点箇所は、競技前に決定しておく為にスムーズに進むが何せ2人で審査するので時間がかかり過ぎて疲れてしまう。集計はチーフエキスパートの仕事で集計が終わり技術委員会に提出を全員で総ての用紙にサインする。

その後、次回スイス大会のチーフエキスパートの選出を改めて行う。この選挙は、競技に入る前に、日本に打診はあったのですが、本日迄保留していた為に行

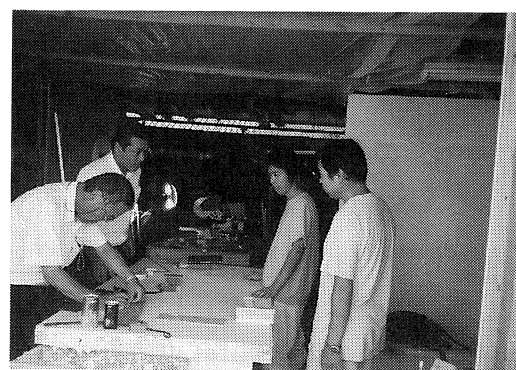
う会議ですが、選ばれると云う事は大変名誉な事と思いますが、チーフの責任の重さ、仕事の多さ、傍から見ても大変だと思っていました。自分一人で決める事でもないし、阿食副会長の意見も聞いてからと思い保留していた訳ですが、再度次回は絶対日本でなければならないと特にドイツ、フランス、台湾の強い賛同を受け、阿食副会長の日左連の為にもと云う事で引き受けてサインをしてしまいました。

これも我が国の左官技術を、今まで出場していた選手と事業所が、遺憾なく発揮されたたまものと思って感謝しております。

### おわりに

今回の選手も大橋幸次氏の指導の元で、練習の成果があり、可成り上手にしかも難なく仕上げてくれました。一次寸法で差を付けられてしまった訳ですが、置引に関しては決して外国の選手との差がありませんでした。

負けたから云う訳ではありませんが、競技の勝敗よりも選手にとってこの大会を機に仕事に対する姿勢、自分自身の技能の力量を肌で感じ、そして外国の選手と刺激し合うという事の大切さを知って



今大会でいろいろお世話になった。(有)イスルギの原崎部長、テクノスクールの高野先生、そして(有)兄弟美工社長 大橋氏

くれたと思います。そして国際大会に出場した事によって指導員の方をはじめ、色々な人達から様々な話を聞き、多くの事を目に焼き付け、そして全国あるいは世界には素晴らしい人がたくさんいる事を知って欲しい。全国あるいは世界単位の広い視野で物事を考える人になって下さい。

私もこの結果を良い薬として、更に努力研究しなければと改めて痛感しております。又、若い人の為に努力は惜しまないつもりです。競技中、心の中で良い成績であれば良いなあと、そして日本の応援をしてくれた人達に良い土産ができればとひそかに思っていたのですが、御期待にそえない成績で終わったことに心から御詫び申し上げます。

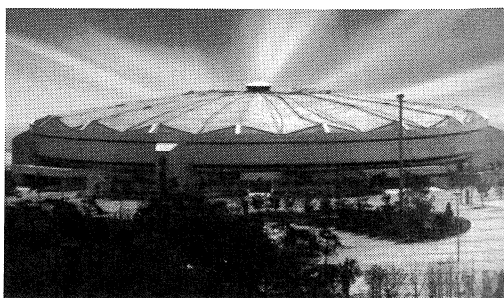
最後になりますが、日左連役員、会員の皆様には財政の大変きびしい中、国際

大会の為に予算を頂き、初期の目標達成もできず、御期待に沿うことができなかった事を深くお詫び申し上げます。そして福島県左官業組合、(有)兄弟美工大橋社長、(有)イスルギ原崎部長、新潟テクノスクール高野先生には大変お手をかけ、そして御負担をおかけした事、深く御詫び申し上げますと共に感謝申し上げます。

今後共、私同様にこの技能五輪に添い御理解とご指導下さいます様、重ねてお願い申し上げます。

又、全国からソウル迄200名以上の応援をしていただきました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

毎回尊い経験をさせていただき技能五輪、そして現場に私生活に又、業界の為に次期世界大会に向けて、役立てて行く覚悟です。今後共よろしく御指導下さいますようよろしくお願いします。



開会式を行った会場全景

# ●韓国大会出場選手名

スイス(CH):ヘス・ミカエル

ドイツ(DE):ギースラー・フローリアン

フランス(FR):ビッツベルゲル・デービー

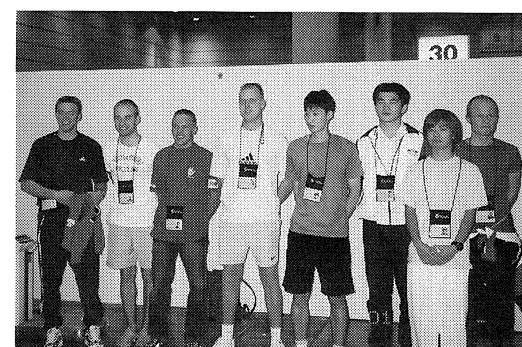
日本(JP):大橋 賢

韓国(KR):キム・ユンゴク

オランダ(NL):バース・アーウィン

台湾(TW):チャン・チャユン

イギリス(UK):ファウンティン・クレイグ



各国の選手と初顔合せ  
写真左から、イギリス、フランス、スイス、オランダ、韓国、台湾、日本、ドイツ

# ●技能五輪国際大会(左官)参加選手一覧

| 回数  | 開催年  | 開催国     | 選手名   | 都道府県 | 事業所               | 成績    |
|-----|------|---------|-------|------|-------------------|-------|
| 17回 | 1968 | スイス     | 松岡 昭  | 東京   | (社)日本左官組合連合会技術研究所 | 7 位   |
| 18回 | 1969 | ベルギー    | 野村 豊  | 熊本   | 上内工業所             | 5 位   |
| 19回 | 1970 | 日本      | 林 実夫  | 愛媛   | (株)千葉組            | 銅メダル  |
| 20回 | 1971 | スペイン    | 上田 千年 | 東京   | 川口工業(株)           | 銅メダル  |
| 21回 | 1973 | ドイツ     | 緒方 嘉春 | 熊本   | 上内工業(株)           | 銅メダル  |
| 22回 | 1975 | スペイン    | 高橋 浄  | 北海道  | (有)丸悦道東左官興業       | 金メダル  |
| 23回 | 1977 | オランダ    | 滝沢 修  | 新潟   | 高橋左官工業            | 7 位   |
| 24回 | 1978 | 韓国      | 大山 宏隆 | 鹿児島  | 新留工務店             | 5 位   |
| 25回 | 1979 | アイルランド  | 岡部 六男 | 熊本   | 上内工業(株)           | 銅メダル  |
| 26回 | 1981 | アメリカ    | 市原 孝昭 | 熊本   | 上内工業(株)           | 4 位   |
| 27回 | 1983 | オーストリア  | 挟土 秀平 | 熊本   | 上内工業(株)           | 7 位   |
| 28回 | 1985 | 日本      | 佐藤 浩  | 千葉   | (有)高橋工業所          | 4 位   |
| 29回 | 1988 | オーストラリア | 吉田 昭彦 | 埼玉   | 麻生左官工業所           | 7 位   |
| 30回 | 1989 | イギリス    | 箭内 由一 | 千葉   | 大山左官工業所           | 6 位   |
| 31回 | 1991 | オランダ    | 八木 晋  | 島根   | (有)藤原技研工業         | 8 位   |
| 32回 | 1993 | 台湾      | 糸原 尚司 | 島根   | 糸原左工房             | 敢闘賞4位 |
| 33回 | 1995 | フランス    | 藤田 三喜 | 石川   | (株)イスルギ           | 敢闘賞5位 |
| 34回 | 1997 | スイス     | 山岸 敏孝 | 新潟   | (有)山岸左官土木工業       | 7 位   |
| 35回 | 1999 | カナダ     | 福村 肇次 | 石川   | (株)イスルギ           | 金メダル  |
| 36回 | 2001 | 韓国      | 大橋 賢  | 福島   | (有)兄弟美工           | 6 位   |

※1950年第1回から1967年第16回まで日本未参加、未実施、不参加等で記録はありません。

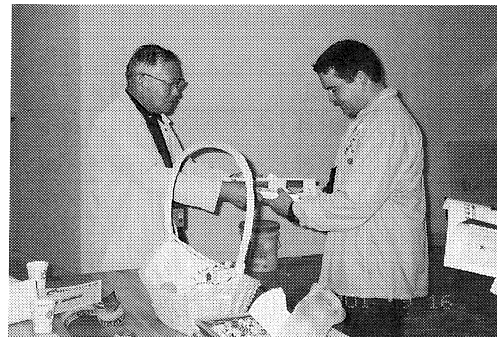


▲各国のエキスパート、後列左から  
2人目が長谷川氏

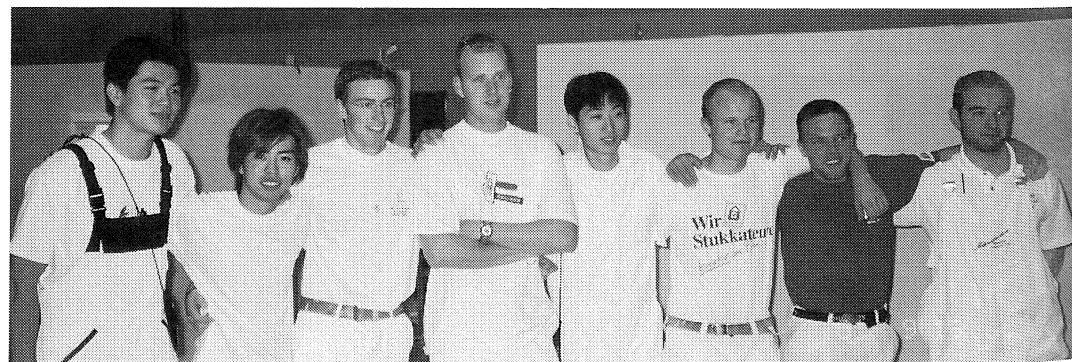
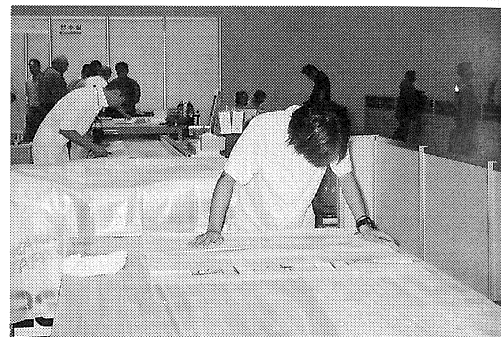
▼チーフエキスパートとショップマスターによる  
使用材料についての説明



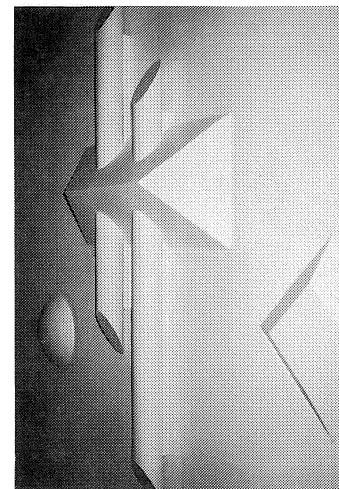
▼フランス・チーフエキスパートと阿食副会長の再会



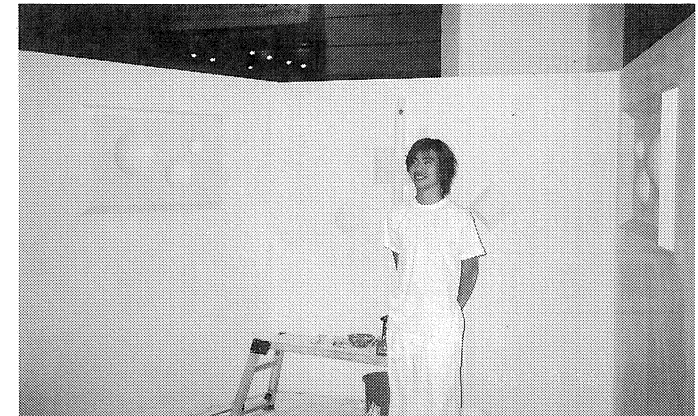
▼図面解説中の日本代表大橋選手



▲競技も終わって各国の選手と…左から、台湾、日本、フランス、オランダ、韓国、ドイツ、スイス、イギリスの選手達



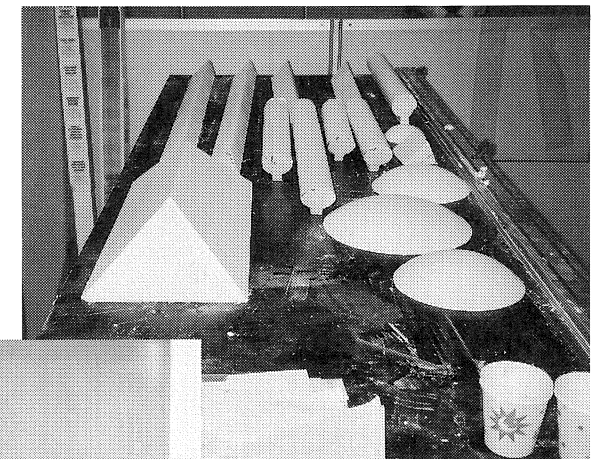
大橋選手の置引完成作品



完成した課題の前に晴れ晴れと立つ大橋選手

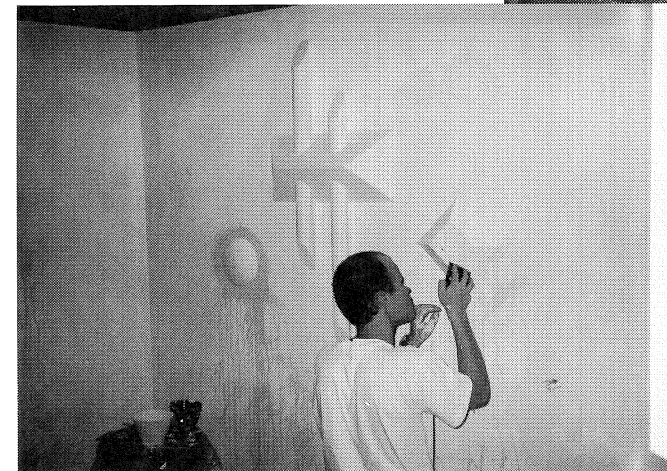


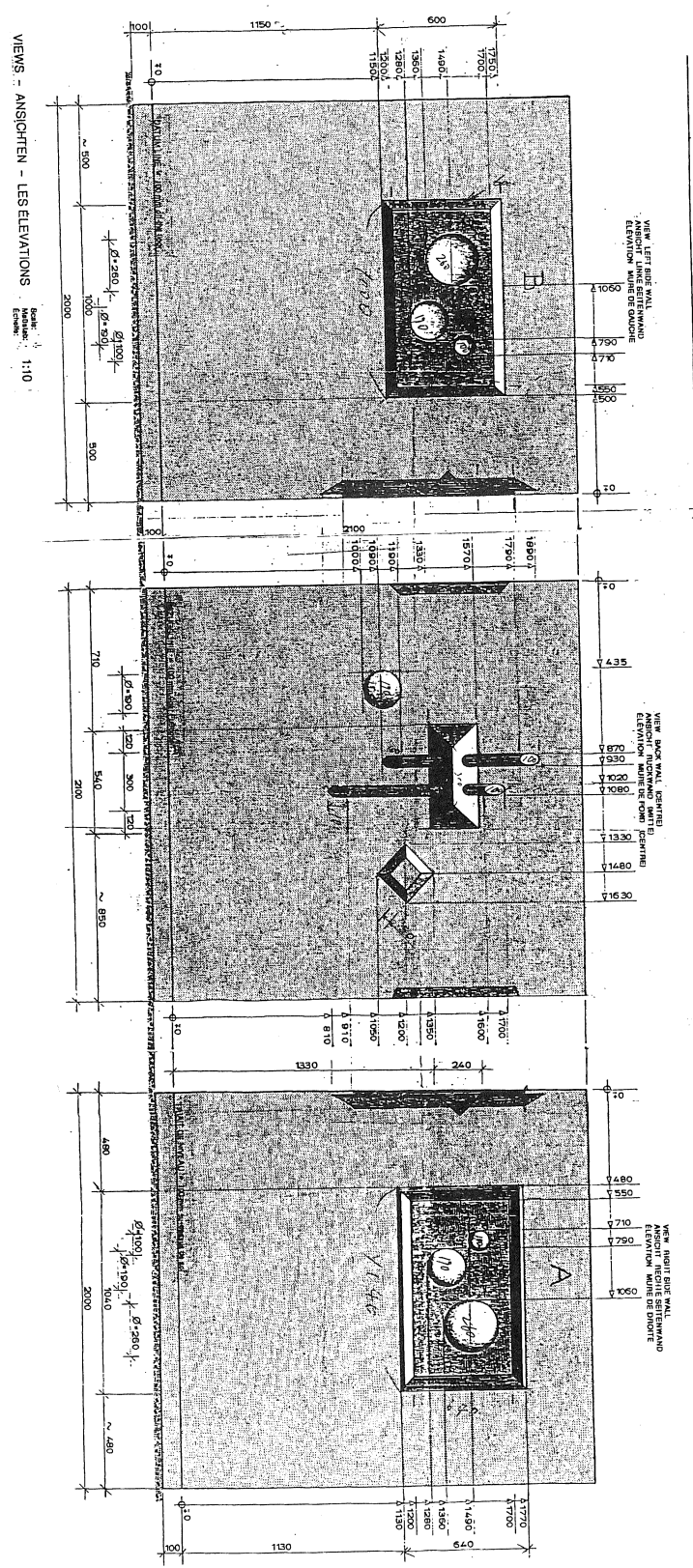
今回の使用材料



▲ドイツ選手の置引作品

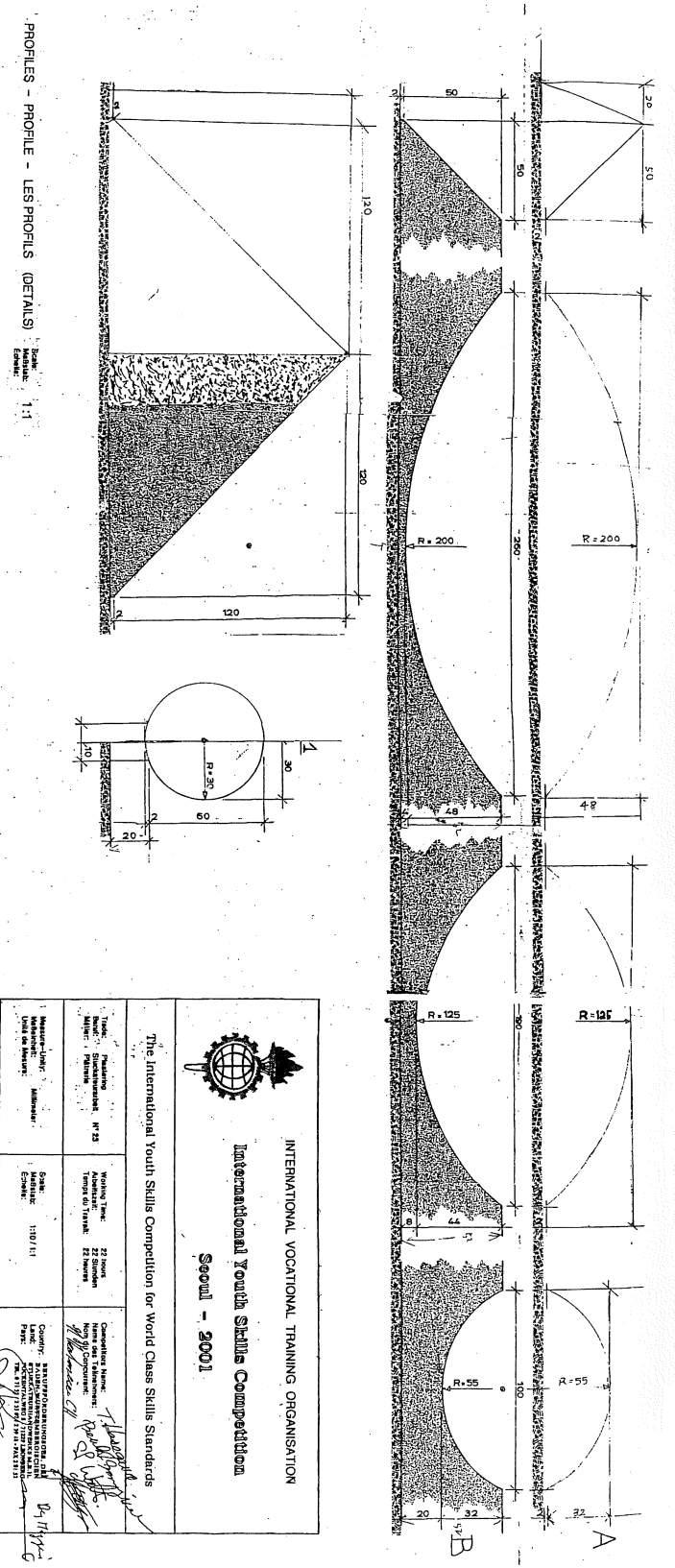
◀置引の仕上げをするドイツ選手





VIEWS - ANSICHTEN - LES ELEVATIONS

第36回  
技能五輪  
国際大会  
韓国大会  
課題図



|                                                                                                                         |                                                      |                         |                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------|
| <p>INTERNATIONAL VOCATIONAL TRAINING ORGANISATION</p> <p>International Youth Skills Competition</p> <p>Seoul - 2001</p> |                                                      |                         |                                                      |
| <p>The International Youth Skills Competition for World Class Skills Standards</p>                                      |                                                      |                         |                                                      |
| Topic                                                                                                                   | Product Design                                       | Topic                   | Product Design                                       |
| Subject                                                                                                                 | Product Design                                       | Subject                 | Product Design                                       |
| Material                                                                                                                | Steel                                                | Material                | Steel                                                |
| Time                                                                                                                    | 22 hours                                             | Time                    | 22 hours                                             |
| Location                                                                                                                | Seoul, Korea                                         | Location                | Seoul, Korea                                         |
| Organized by                                                                                                            | International Vocational Training Organisation       | Organized by            | International Vocational Training Organisation       |
| Co-organized by                                                                                                         | Ministry of Education, Science and Technology, Korea | Co-organized by         | Ministry of Education, Science and Technology, Korea |
| Participating Countries                                                                                                 | 110/11                                               | Participating Countries | 110/11                                               |